

## 第六章 仕事の心理

・学校現場における子どもの「仕事」というのは、授業中子どもがいたずらをしたり、関係ないことをしたりすることを防ぐための「作業」を表すのではなく、子どもが社会に出て、役に立つあるいはそれと対応して行われるものを習得することである。

・仕事の心理における根本的な要点は、「仕事」が経験の知的側面と実践的側面との釣り合いを保つという点である。p. 159

子どもが「仕事」を有効的に行われるために、教師には十分な教材の準備と研究が必要とされる。また、ある職業のための教育を第一の狙いに行っている作業（専門学校？）とは違う。また、手工教授においても、「仕事」について、子どもが意識的に自分自身の工夫を凝らしたり計画を立てたりすることがなく、外部的な結果（テストの点数・受験のための学力）や習慣（百マス計算など？）に目的が向いている限り、それは「仕事」とは言えない。

・正常な感覚というものは、為さなければならないことを為す活動を導く上に手掛かりとして、助けとして、作用するものである。それらの感覚は、それ自らが目的ではない。実際の必要と動機から切り離されていると、感覚訓練は単なる感覚器官の練習になるにすぎない。p. 162

・「思考」は何らかの困難に処する必要から起こるもの。その困難を克服する最善の道を反省することの中で生まれる。p. 162

・仕事の心理が有益な光を投げかける教育上のもう一つの要点は子どもの興味の地位である。しかし、興味にもいい興味と悪い興味、いい加減な興味、一時的な興味と、持続的な興味といった数々の興味に区別をつける必要がある。p. 163

・第一にあらゆる興味は何らかの本能、何らかの習慣から生ずるもの。

・第三に教育における興味の原理に対してなされる反対論は子どもをあれやこれやと絶えず刺激し、連続性と一貫性を破壊することによって、子どもの精神をがたがたにしがちだというのである。p. 166

・「仕事」は何年間も何ヶ月間も連続して一定の力を着実に組織立てて与えていくことが望まれる。学校教育においては6年間、9年間で連続的に首尾一貫した教育が求められると考える。

## 第七章 注意の発達

・幼い子どもたちは観察および思考は主に人に向けられる。人が何をするか、どんな仕事をやっているか、など。

・教育論の見地

1 「具体的」なものおよび、「個人的」なものを力説していながら、現代の教育学説がしばしば見失っている事實は、個々の物理的なものの存在や提示は何ら具体性を保証するものではないということ。

子どもの精神と自然との連結を設定することではなく、すでに行われている連結に自由な、そして有効な活動をあたえることである。p. 174

2 組織するものはすなわち「相関」させるものは、教材の親近性および連続性である。

・子どものイメージに活動を持続させるために、そして新しい、拡大しつつあるものを確実にいきいきと実現することに心の安定と満足をみいだせるために、経験および知識を訂正し拡張する新たな観察がおこなわれるように、子どもが自己の経験の蓄積と自己の知識のある限りを引き出し、他の子どもたちと交換し合うようにいざなわれる機会をあたえる。p. 175

・人間はあくまでも何らかの目的を描いて行動する。

**無意的注意**→（7歳にいたるまでの）子どもは自分がしていることに単純に没頭する。だから、意識的な努力なしでも多くの精力がついやされる。折り紙が楽しいから折り鶴を折る。

**有意的注意**→（8歳から11、12歳）ある結果がイメージにえがかれる。そして、その結果を確保することに役立つがゆえに子どもは眼前にあるもの、あるいは直接に自分が為しつつあるところのものに注意を向ける。それが興味のないものでも嫌なものでも、それが望ましいもの、あるいは価値あるものと感じられるところから、牽引力と把握力を借りるのである。千羽鶴を送るために折り鶴を折る。

**反省的注意**→力の成長につれて、子どもは見出されるべき、発見させるべきある事柄を目的と考えることができるようになり、知的な疑問についての探求と解決の助けとなるように自己の行動とイメージを統制することができるようになる。どうすれば正確な折り鶴が折ることができるか。どうすれば速く折り鶴を折ることができるか。p. 177

・しかし、この注意の基礎としてある問題、ある疑問が精神の中に存在していない限り、反省的注意は不可能である。教材そのものに魅力を感じさせることができない時、教師は小手先の技量で「授業を面白く」させるか、外発的な動機付け（内申点、居残り、立たせるなどの威嚇）といった手段を取りながら、子どもに注意を向けさせるようになる。p. 179

・真の反省的注意は子ども自身が問題を自分のものとして、考えているかどうかによって現れる。その問題を探究するために調べ学習や、考察をくりかえし、「真の訓練、すなわち統制力（生きる力？）の獲得になる。p. 180